

特集

- I 一般社団法人 茗溪会第4回定時総会
- II 教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育（最終回）

目次

- グラビア …… 01 ～ 02
- 特集 I 一般社団法人 茗溪会第4回定時総会 …… 03 ～ 09
- 特集 II 教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育（最終回）
「教育とは人間の可能性を引き出す営みである」 …… 10 ～ 16
- 茗溪・東西南北 …… 16
- 筑波大学は今 …… 17
- 茗溪会 公開講座
藤原教授の英語のはなし 第11弾「英語になった日本語」藤原保明 …… 18 ～ 19
- 第19回茗溪・筑波グランドフェスティバル開催 …… 20
- 第41回宿舎祭（やどかり祭） …… 21
- 茗溪学園だより …… 22
- 平成27年春の叙勲 おめでとうございます …… 23
- 桐の葉のつどい …… 23
- 追悼録 …… 24
- 広報 …… 25
- 編集後記 …… 25

茗溪



夏

2015

平成27年

no.1086



Juchheim
SEIT 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことのすべて

SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

シダックスグループ営業開発本部

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビル3F
TEL.03-5784-8853 (代表) FAX.03-5784-8842

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

〈4つのスーパーサイエンス特別専攻〉

- 環境エネルギー ■ 医生命科学
- ICTスペシャリスト ■ 次世代自動車開発

2014年度
4月新設

科学的センスとクリエイティブな実践力を身につけた
理数系教員を養成する

STC サイエンス・ティーチャー
SCIENCE TEACHER COURSE 養成コース



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

理事長 中部 謙一郎
理 事 河野 隆二(S47農)
顧 問 清水 進一(S43理 数) (神奈川茗溪会 会長)
監査室 矢野 正人(S53院修 農) (同 事務局長)

工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科
[管理栄養士養成課程]

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科



グランドフェスティバル

応援する学生たち



助成金をお渡しする
江田昌佑茗溪会理事長（左）
助成金を受け取る
玉川信一筑波大学副学長（右）



やどかり祭

前夜祭でやどかり祭の
シンボル「宙」の文字が
浮き出ている



自分たちで製作した「おみこし」を担ぐ医学専門学群の学生たち



連載「清水一彦さんと考える
日本の教育」(最終回)
山梨県立大学での2人
右・清水一彦氏
左・藤田晃之氏





一般社団法人 茗溪会 第4回 定時総会

平成27年5月21日(木) 茗溪会館にて



正副理事長と監事



北海道・東北・関東の代議員のみなさん



近畿・中国・四国・九州の代議員のみなさん



関東・東京・中部の代議員のみなさん



一般社団法人

茗溪会 第4回定時総会

平成27年5月21日(木) 茗溪会館にて

定時総会出席代議員一覧

(敬称略)

図情橘会	森	茜	埼	玉	荒井修二	長	野	堀金達郎	大	阪	佐藤隆一
北海道	沖野隼夫		埼	玉	奥谷多作	新	潟	永井成一	兵	庫	溝口繁美
北海道	大沼寛		千	葉	青木寛	新	潟	中島郁雄	奈	良	藤善尚憲
青森	田代高之		文科省		三橋浩志	富	山	坪池宏	和歌山		土肥二郎
宮城	松坂孝		中央		中村颯司	石	川	久下恭功	鳥	取	有田博充
秋田	船木賢咲		新宿		浅井一郎	静	岡	伊藤宏	島	根	松本弘光
山形	津田浩		新目黒		高橋基之	静	岡	岩城明	岡	山	長尾隆史
福島	鈴木弘文		葛飾		渡邊悟	愛	知	高須勝行	山	口	鍋井邦久
茨城	高瀬宏樹		八王子		小島和雄	愛	知	村松利之	徳	島	木村潤
茨城	仙波操		神奈川		清水進一	愛	知	川村昌宏	福	岡	重枝武司
茨城	武井秀一		神奈川		小山和夫	岐	阜	丹羽章	佐	賀	野中通兼
茨城	石崎弘美		神奈川		佐々木悦子	滋	賀	町田登	長	崎	浦下悦二
栃木	宇田貞夫		神奈川		木本幹雄	三	重	丹羽毅	大	分	渚洋行
栃木	上岡利夫		山梨		根岸洋一	京	都	塩見均	鹿	児	原口和哉
群馬	佐藤功		長野		竹村和也	大	阪	松本秀範			

平成27年度 茗溪会定時総会

ご挨拶

国立大学法人 筑波大学長

永田 恭介
(代理 筑波大学名誉教授 西川 潔)



校友会の中で最も由緒ある茗溪会の平成二十七年年度の定時総会が開催されましたことに敬意を表しますとともに、日頃からの本学へのご支援に心より感謝を申し上げます。

私儀、昨年の学長選考会議の議により、本年四月から引き続き学長の任にあたることとなり、あらためて身の引き締まる思いです。なお一層のご鞭撻をお願いする次第です。

まず、この一年間の成果の一部をご報告いたします。昨年三月には、かねてから文部科学省との間で意見交換を進めてきたミッションの再定義がすべて確定し、文部科学省のウェブサイトに公表されました。おかげさまで、本学は研究面で医学が「最先端」、工学が「世界水準」、理学の物理学分野が「世界トップクラス」、農学が「先進的」と分類されたほか、人文・社会及び学際・特定分野において「異分野融合型教育プログラム」が取り上げら

れるなど、研究と教育の両面で高い評価を受けることができました。六月には山海嘉之教授が内閣府の革新的研究開発推進プログラム(IMPACT)のプログラム・マネジャーに採用されました。九月には、全学をあげて応募準備をしたスーパースターグローバル大学創成支援事業でタイプA(トップ型)に選ばれ、十年間にわたる長期の支援を受けながら、徹底した大学改革や国際化を進めていくこととなりました。十月には全学的な国際バカロレア特別入試の記念すべき最初の合格者が発表されました。

学生の活躍も目立ちました。二月には大学院人間総合科学研究科の平安座依子さんが天皇陛下の御即位二十年を記念して御下賜金によって創設された「日本学術振興会育志賞」の第四回の受賞をいたしました。スポーツでは、第六十二回全日本剣道選手権大会において竹ノ内佑也選手が史上最年少の優勝に輝き、男子バスケットボール部が第六十六回全日本大学バスケットボール選手権大会で実に六十年ぶりに優勝するなど、数々の快挙を成し遂げました。また、大学院に在学する工藤公康氏がソフトバンクの監督に就任したのも、本学ならではの快挙と言えるでしょう。

本学は四十二年前に「新構想大学」として出発いたしました。最近では「新構想大学」から「未来構想大学」とモデルチェンジを図っているところです。過去の大学の在り方を反省して創設された本学が、今度は自分たちの望む未来の姿から逆算して活動を行う道程が始まったばかりです。現在は、文部科学省が設定している大学改革加速期間の最後の年度に入り、平成二十八年度より始まる第三期中期目標・計画の策定に向けて知恵を絞っているところです。しかし、本学にとって、そして国立大

学にとって荒波が待ち受ける時期であることを認識しなければなりません。その一つの要因は我が国の財務状況にあります。国債残高が約七八〇兆円超という国際的にも類を見ない深刻な状態であり、国から国立大学に交付される基盤的な運営費も毎年大幅に削減され続けています。その削減の終了も見いだせない現在、各国立大学法人は夫々に工夫をして、この難題を乗り越えていかなければなりません。

本学でも収入を増加させる工夫、支出を抑制する工夫、そして限られた資源の有効活用につながる工夫などに真剣に取り組み始めています。もう一つの要因は、十八歳人口の顕著な減少が差し迫っているということです。十八歳人口は二〇一四年には一八八万人であり、戦後の第一次ベビーブームの子どもたちが十八歳を迎えた一九六六年の二四九万人の半分以上です。十八歳人口は、十年後にはさらに一〇万人以下に減少し、二十年以内には一〇〇万人を大きく割り込むことが見込まれています。

日本の活力を維持するためには、将来の職業構造が変化したとしても、知識基盤社会を支える一定の知的人口を保たなければなりませんから、大学は将来の有り様を考えていかなければなりません。

人口が激減し、財政赤字が増加する中で、大学そのものの在り方も問われています。筑波大学としては、個々の研究者や組織にとつての最適ではなく、全体最適に資する方策を考えなければなりません。

このような全体最適への工夫も、翻れば個々の教職員の本学や所属する部局の未来を考えることから始まります。同窓生の皆様からはぜひともお知恵とお力を貸していただき、敢然と荒波に立ち向かっていきたいと願う次第です。

最後になりましたが、同窓生の方々には、お一人お一人の御健康と御活躍を祈念しています。また、茗溪会におかれましては過去から現在にいたる同窓生の誇りとなる活動の展開と、また未来の同窓生にとってのご支援の充実をお願い申し上げます。

一般社団法人茗溪会 第4回 平成27年度 定時総会

挨拶 (要旨)

一般社団法人 茗溪会

理事長 江田 昌 佑



そのため、会費制度の改正、地域組織等の活性化を目指した活動支援の改善や応援体制の一層の強化推進を図るため、各組織の会員数に応じて会費の一部を「組織のための活動支援金」としてフィードバックを図る等、また世代を継ぐための「茗溪フェロー」へのご協力をいただき、その成果にも見るべきものがございます。

これはひとえに、先輩各位のご理解、ご協力の賜ものと感謝しているところです。諸先輩方には、絆のあかしの意味も込め、お礼の印として新作の「バッジ」を、高額（累積）をお納めいただいた方がたに一人ごとにお届けしております。

既に推進しております「5%の会員増加」、「5%の収入の増加」、そして「5%の経費の削減」を実行して参りました『ゴー・5・go』作戦と称する「茗溪会拡充キャンペーン」も、今後とも一層の充実を図って参りたいと存じております。

一方、昨年度に申し上げました本部事務局内部組織は、効率的な仕組みに替えて参りますと共に事務機能の一部を順次、筑波事務所へ移して参り、会員構成の過半数が筑波大学卒業生で占められているという現実を踏まえ、先程申し上げましたような具体的なプランが見えるサービスの充実を図って、一応の成果を見つつあるところでございます。

また、茗溪会館の利活用の問題も焦眉の急として、現

在、外部との折衝も最終段階を迎えており、本日の総会の中でご報告を申し上げることになろうと存じます。

私共の茗溪会も明治初期以来の永い歴史を持ち、駿河台の昌平饗から大塚、そして筑波の地へと学び舎の場を進めて参りました。

一方、我が母校・筑波大学もまた、前身諸学校の百年を越える永い伝統に裏打ちされながら、開かれた大学としての新構想のもとで、既に四十余年の充実した年月を経過していることは、誰もが承知しているところでございます。

いま、大学は前進する新たな姿を見せて「未来構想大学」として、グローバル化の中で、指導陣の強化を図りながら更なる挑戦を重ねています。

それは、国際的には高い水準での成果を生む改革を踏まえた果敢なる挑戦でございます。

それだけに、私たち自身もまた、私たちが推進しております「茗溪会拡充キャンペーン」を、手堅く継続して行くことが必要であると、痛感しているところでございます。

また、このキャンペーン活動で、その目標を達成するためには、私たちの事業を更に見直して、年間の事業計画を踏まえて、更に中期計画、長期計画を策定し、しかも、各段階でのステップアップを踏まえて、それぞれのプランに基づいて行っていく必要があると存じます。

しかも、それは組織の充実強化を図りつつ、全国的な視野で行って参る必要があります、そのためには皆さまの一層のご協力と力強いご示唆を賜りたいと存じます。

このことが次へのステップに結びつくと思じます。皆さまの更なるお力添えを賜りますよう、重ねてお願い申しあげまして私のご挨拶とさせていただきます。

本日は、一般社団法人茗溪会定時総会を開催致しましたところ、ご多忙にも関わりませず、全国各地からご出席賜りまして、心から感謝申し上げます次第でございます。私どもの茗溪会は、一般社団法人の立場で、母校・筑波大学の同窓会の性格をより鮮明にさせるための「新法人」に衣替えを致しましてから、四回目の総会を開催することになりました。

平成二十五年度、及び平成二十六年度の総会、あるいは平成二十七年の新年のご挨拶等の中で、事業の基本的な柱として、

1 同窓会としての互助事業の拡充

2 公益目的事業の強化

3 大学への支援の充実

等を実施して参りたいと私は申し上げて参りました。

一般社団法人 茗溪会（平成27年度） 第4回定時総会 議事（要旨）

一般社団法人茗溪会第4回定時総会は、平成27年5月21日（木）14時から茗溪会館において開催された。議事に先立ち、高野力常務理事・事務局長から、代議員総数10名のうち、出席59名（うち代理出席3名を含む）委任状による出席34名、合計93名が出席との報告があった。出席した理事は13名、委任状提出理事は11名であり、監事2名は全員出席であった。

江田理事長から『新法人発足後4回目の総会を迎え、今年度も引き続き「茗溪会拡充キャンペーン」を推進し一層の充実を図っていきたい。また、このキャンペーン活動の目的を達成するために事業を更に見直し、中期・長期計画を策定し、各段階でのステップアップを踏まえて組織の充実強化を図りたい』等の挨拶があった（P5参照）。

江田昌佑理事長の挨拶に続いて、筑波大学永田恭介学長は公務のため欠席されたため、同大学西川潔名誉教授（本会副理事長）が来賓祝辞を代読した（P4参照）。

議長就任、議事録署名人及び開会宣言

定款第15条により議長に江田理事長が就き、定款第19条第2項により議事録署名人には議長及び出席した理事全員であることが告げ、代議員の出席状況から、定款第13条により、総会が成立した旨を告げ、開会を宣言して議事に入った。

審議事項

第1号議案 平成25年度事業報告、収支計算書類及び監査報告の承認について

高野力常務理事から資料に基づき平成26年度事業報告について次のような説明があった。



高野 力 常任理事

1 会員状況

正会員 20,520（昨20,243）
登録会員 54,630（昨54,316）
（2年間会費未納者を含む登録会員数）
2 第3回定時総会は平成26年5月22日に開催。

3 理事会は年に7回、開催。

4 企画運営委員会は、年2回、財務法務委員会は、年2回、組織委員会は年10回、大学つくば地域支援委員会は10月に、公益広報委員会は年に10回、顕彰選考委員会は年に3回、会館特別委員会は年に4回、会館対策チームは年に10回、関連三法人関係の会合は年に2回、監事監査会は4月に1回、大学との連絡・懇談会は年2回開催された。

5 公益事業として、①学生活動支援事業、②顕彰事業、③公開講座、④大学支援事業、⑤教職受験対策講座補助等をおこなった。③の公開講座

は本部主催が4件、支部主催が11件実施された。

6 地域組織総会等は29地域組織で総会で開催され本部から19の地域組織に本部から理事を派遣した。

7 追悼のつどい 9/13 参列34名

8 筑波大学就職ガイダンス講師派遣 11月 1月 3月

9 広報 季刊誌「茗溪」の発行

1081号（春号）1082号（夏号）1083号（秋号）1084号（正月号）

10 茗溪会拡充キャンペーン

①茗溪フェロー募集 延べ応募者数 1,038（3/31現在）

②誌上交流広告応募件数

暑中見舞い38件 新年賀詞交換30件

平成26年度収支決算書及び監査報告承認の件

議長から平成26年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書は本総会で承認を得ることとされている旨の説明があり、岩田敏昭局長代理から資料に基づき詳細な報告がされた。（項目別の収入及び支出はP8の収支計算書を参考にされた）



岩田敏昭 局長代理

続いて飯塚良成監事から平成27年4月20日に会計監査と業務監査を行い、次のような監査報告がなされた。

(1) 財務諸表すなわち貸借対照表、正味

財産増減計算書及び財産目録は、会計帳簿の金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認める。

(2) 事業報告の内容は真実であると認める。

(3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないものと認める。

議長は、第1号議案の一括審議を諮り、全会一致で異議なく承認された。



飯塚良成 監事

第2号議案 平成27年度事業計画（案及び予算（案））について

議長の指示により、高野力常務理事が資料に基づき平成27年度事業計画（案）を、岩田敏昭局長代理が資料に基づき平成27年度予算（案）について説明した。

議長が質問・意見を求めたが、特になく、本議案については、異議なく賛成多数（拍手）であったので、議長は可決承認されたことを宣言した。

第3号議案 役員の選任（理事2名、監事1名）について

議長の指示に従い、役員選考委員長を務めた西川潔副理事長から、4月19日に



挙手する代議員のみなさん

以上ですすべての議事が終了した。

以上の提案に対して、議長から、順次、挙手により選任について諮ったところ異議なく賛成多数であったので、議長は選任されたことを宣言した。



西川 潔 役員選考委員長

開催された役員選考委員会で慎重に審議した結果、理事及び監事の候補者として次のとおり選考したとの提案があった。
①新理事候補者としては、玉川信一氏と高橋基之氏を選考した。
②新監事候補者としては、田路至弘氏を選考した。

報告事項

(1) 茗溪会拡充キャンペーン（ゴー・5・GO作戦）について
茗溪会拡充キャンペーン実行委員会委員長 井口武雄副理事長から資料に基づき過去2年間の取組について説明があり了承された。



井口武雄 茗溪会拡充
キャンペーン実行委員会委員長

(2) 代議員選挙について
室岡和彦局長代理から、本年度は、平成28年度及び平成29年度の代議員を選出する年であるとして、資料に基づいて、代議員推薦数、代議員選挙の手順及び代議員立候補届出書等の様式について説明があり、所定の手続きを締切り期限までお願いしたいとの要請があった。



室岡和彦 局長代理

(3) 茗溪会館の利活用について

井口会館問題特別委員会委員長から、茗溪会館の利活用について、昨年来、様々な会社と折衝してきた中で、結婚式場と宴会を中心に事業を展開している（株）シーズンを、全館一括契約で経営委託先とする基本合意契約書を取り交わしたとの報告があった。また、高野常務理事から基本合意書締結後の今後の進め方として、地下、1階ホールや玄関等の改修工事や基本設備の改修工事は既に検討に入っており、秋の結婚式シーズンに間に合わせるために7月までに工事を終え、8月にオープンする計画で進めているとの報告があった。

以上で、茗溪会通常総会は、予定されたすべての内容を終了し閉会した。

諸連絡

(1) 会員登録・会費納入状況等について
高野常務理事から説明があった。
(2) 各地域組織からの連絡文書について
室岡局長代理から各地域組織から本部への連絡文書の様式について説明があり、「組織表」は7月31日までに提出願いたいとの要望があった。

(3) 関連法人の役員紹介について
高野常務理事から、関連法人である筑波学都資金財団の石山事務局長及び武井学生宿舍管理事務所長、並びに茗溪学園の田代校長の紹介があり、それぞれ挨拶があった。
総会に引き続き、会場を4階に移して会員懇談会が開催され、江田理事長の挨拶、出席した者による懇談が行われた。



理事のみなさん



茗溪学園 田代校長

武井学生宿舍
管理事務所長

筑波学都資金財団
石山事務局長

平成26年度決算報告

貸借対照表

平成27年 3 月31日現在

単位千円

資産の部	
I 流動資産	
現金預金	500,181
未収消費税	258
前払費用	
流動資産合計	500,439
II 固定資産	
その他固定資産	
建物	660,369
構築物	5,064
機械装置	2,256
什器備品	983
土地	314,775
その他固定資産合計	983,449
資産合計	1,483,888
負債の部	
I 流動負債	
未払金	
前払金	19,757
未払い法人税	70
預り金	441
流動負債合計	20,268
II 固定負債	
長期借入金	15,666
退職給付引当金	3,600
満期共済金引当金	36,200
保証金	1,400,000
修繕積立引当金	1,000
固定負債合計	1,456,466
負債合計	1,476,735
正味財産の部	
一般正味財産	7,153
正味財産合計	7,153
負債及び正味財産合計	1,483,888

正味財産増減計算表

平成26年 4 月 1 日から平成27年 3 月31日まで

単位千円

I 一般賞味財産増減の部	
1 経常増減の部	
1 経常収益	
① 地代収入	58,900
② 正会員受取会費	30,131
③ 茗溪フェロー会費	4,624
④ 委託料収入	2,904
⑤ 広告料収入	4,278
⑥ 寄付金収入	136
⑦ 退職給付引当金取崩収入	3,061
⑧ 満期共済金引当預金取崩収入	—
⑨ 受取利息	72
⑩ 駐車場利用収入	1,276
⑪ 雑収益	1,528
雑収益計	106,912
2 経常費用	
① 事業費	105,446
② 管理費	54,525
経常費用計	159,971
当期経常増減額	△53,058
2 経常外増減の部	
1 経常外収益	
経常外収益計	0
2 経常外費用	
固定資産除去損	7
経常外費用計	7
当期経常外増減額	△7
当期一般賞味財産増減額	△53,065
一般正味財産期首残高	60,219
一般正味財産期末残高	7,153
II 正味財産期末残高	7,153

収支計算書

平成26年 4 月 1 日～平成27年 3 月31日

単位千円

I 事業活動収支の部	
1. 事業活動収入	
(1) 事業活動収入	
会費収入	34,755
正会員会費収入	30,131
フェロー収入	4,624
事業収益	66,082
地代収入	58,900
委託料収入	2,940
広告料収入	4,278
寄付金収入	136
寄付金収入	136
雑収入	2,877
駐車場利用収入	1,276
受取利息収入	72
その他雑収入	1,528
退職給付引当預金取崩収入	3,061
退職給付引当預金取崩収入	3,061
事業活動収入計	106,912
(2) 事業活動支出	
事業費支出	104,428
管理費	17,838
予備費	2,000
事業活動支出計	122,266
事業活動収支差額	△15,353
II 投資活動収支の部	
1 財務活動収入	0
財務活動収入計	0
2 財務活動支出	
(1) 借入金返済支出	20,600
(2) 保証金返済引当支出	33,000
財務活動支出計	53,600
財務活動収支差額	△53,600
当期収支差額	△68,953
前期繰越収支差額	189,837
次期繰越収支差額	120,883
公益財産支出計画充当減価償却	2,131

平成27年度 一般社団法人 茗溪会 事業計画

1. 事業計画のねらい

- (1) 本年度は一般社団法人移行後4年目にあたり、将来を見通し、さらに事業を円滑に進めるための計画を実施する。
- (2) 公益目的支出計画に基づいて事業の推進を図る。
- (3) 茗溪会館の利活用を安定・向上させることを重点事業と捉え取り組む。
- (4) 平成24年2月の財務審議会答申を受け、継続して将来を見通し事業を展開する。

2. 事業の目的（定款第3条）

会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人筑波大学の目的及び使命の達成に協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資する事を目的とする。

3. 事業の内容（定款第4条）

- (1) 会員相互の親睦を図るための交流事業並びに会員の福祉を図るための共済に関する事業
 - ① 茗溪会拡充キャンペーンの継続実行 ② ホームページの充実による交流促進
 - ③ 追悼のつどいの実施
- (2) 定期刊行物その他出版物などの発行に関する事業
 - ① 季刊誌「茗溪」の発行…年4回
- (3) 研修会、講演会、公開講座等公衆の教養向上と地域社会への貢献に資する事業
 - ① 公開講座の実施 ② 地域組織等主催による公開講座への助成
- (4) 学術、芸術、社会貢献、国際相互理解等の顕著な活動に対する奨学、支援、表彰などに関する事業
 - ① 顕彰事業（社会貢献活動功労者、筑波大学大学院生、筑波大学芸術関係）
 - ② 学生諸活動への助成事業
- (5) 財産の管理・運営に関する事業
 - ① 茗溪会館の利活用を安定・向上させる事業
- (6) 教育の振興、普及活動に資する事業
 - ① 筑波大学側と地域組織等との交流 ② 筑波大学就職ガイダンスへの協力
 - ③ 教職受験対策研修会の開催 ④ 茗溪筑波グランドフェスティバルの共催
- (7) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 前項の各事業は、全国において行うものとする

平成27年度予算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

単位千円

科 目	27年度予算	科 目	27年度予算	科 目	27年度予算
I 事業活動収入の部		福利厚生費支出	0	II 投資活動収支の部	
1 事業活動収入		祭典費支出	520	1 投資活動収入	0
(1) 事業活動収入		旅費交通費支出	700	2 投資活動支出	0
会費収入	40,000	負担金支出	210	(1) 退職給付引当預金	0
正会員会費収入	34,896	通信運搬費支出	7,800	(2) 保証金返済引当預金	0
フェロー収入	5,104	印刷製本費支出	5,000	(3) 修繕目的積立預金	0
事業収益	65,403	謝礼金	100	投資活動支出計	0
地代収入	58,900	弔慰金(共済会員)支出	0	投資活動収支差額	0
委託料収入	2,203	満期共済金支出(共済)	0	III 財務活動収支の部の部	
広告料収入	4,300	租税公課支出	20,482	1 財務活動収入	0
寄付金収入	100	業務委託費支出	7,500	財務活動収入計	0
雑収入	2,577	高熱水料費支出	6,500	2 財務活動支出	
満期共済金引当預金取崩	0	火災保険料支出	700	(1) 借入金返済支出	15,666
退職給付引当金取崩	2,000	修繕費支出	3,000	財務活動支出計	15,666
事業活動収入計	110,080	支払利息支出	350	財務活動収支差額	△15,666
(2) 事業活動支出		管理費	18,574	IV 予備費支出	2,000
事業費支出	86,962	事業活動支出計	105,536	当期収支差額	△13,122
給料手当支出	22,000	事業活動収支差額	4,544	前期繰越収支差額	139,163
助成金支出	12,100			次期繰越収支差額	126,040

教育とは 人間の可能性を引き出す 営みである



【略歴】

清水一彦先生

1974 東京教育大学教育学部教育学科卒業
1980 筑波大学教育学研究科博士課程
単位取得退学
1997 博士（教育学）
1999 筑波大学教授
2015 山梨県立大学理事長・学長
専門は教育制度学
日本教育制度学会会長

【清水先生の子ども時代の暮らし】

藤田 今回はこのシリーズの最終回ですので、きょうは清水先生が教育学者として歩んでこられた自分史をお話していただきながら、いま、わが国が直面している教育の課題に私たちはどう向き合っているのかを聞いてみたいと思います。

そこで、まず、清水先生の子ども時代はどのような暮らしをされていたのか、そしてその頃の教育はいまの教育とどのように違っていたのかというあたりからお話をうかがっていききたいと思います。

農家の労働力としての子ども時代

清水 私は農家の男ばかりの5人兄弟の3番目として生まれました。うちは農家としては、乳牛、養蚕、米、野菜など大規模にやっていたので、子どもたちもみな労働力となっていました。

農家の仕事というのは子どもにとっては相当つらいもので、養蚕の忙しい時には、朝4時にはたたき起こされて、学校に行くまでのノルマとして桑摘みをさせられました。桑の葉を籠一杯になるまで摘むのですが、子どもの手では1時間半はかかるようなきつい仕事でした。

そうした農作業をした後で朝食をとり学校に行くのですが、私たち兄弟が通っていた学校は途中には山越えをするような場所もあって、歩いて1時間半以上もかかる場所にありました。

そんな山間の学校でしたが給食はありませんでした。ただ、その小学校の給食は子どもたちが自分の家から野菜を持って行って、いまでいう自校方式のように学校でつくるといいうやり方をしていました。でも、私はときどき野菜を持っていくのを忘れて、通信簿に「よく野菜を忘れる」と書かれたことがあります。その通信簿は今も手元に残っています。

藤田 1時間半ほどかけて桑摘みをして、それから1時間半かけて学校に通うというなかなか大変な生活だったんですね。

清水 私はその頃のそういう生活が嫌でして母親の「早く起きろ」という言葉はいまでも耳に残っています。土曜日や日曜日、春休み、夏休み、そして農繁期などの学校が休みになる時も普通は子どもにとっては楽しい時なのでしょうが私にとっては労働力としての期待される時でしたから嫌でたまりませんでした。私が越境して甲府の高校に進学しようと考えたのも、このような生活から逃れるためだったといえるかもしれません。

藤田 越境入学や高校での生活については後ほど詳しくお聞きしたいと思います。いまはもう少しこの頃の学校生活や当時の先生のお話を伺いたいと思います。

学校での勤労体験の思い出

清水 その頃の学校では、必ず勤労体験が行われていたが、私たちの学校では近くの山に出かけ、大きな鎌を使って下草刈りをやりました。



農作業と学校

藤田 いまは、

勤労体験というのはいまの学校でやっているだけで、多くの学校では職場体験に様変わりしています。地域に奉仕するということや学ぶという点では勤労体験は大事な学習の場ではないかと思っています。

清水 勤労体験はどのような形でもいいのですが、キャリア教育という視点からもっと重視されていいのではないかと思います。

先生は尊敬される存在だった

藤田 小学校時代に、思い出に残る先生はいらっしゃいましたか。

清水 思い出に残る先生は沢山いますが、一人だけあげるとすれば、私が叱られた先生のお話をしたいと思います。

小学校の時の話ですが、休み時間にふざけていて私の投げたボールが女の子にあたってしまったのですが、私は机の上に座っているだけで謝ることもしませんでした。

教室に入ってきた担任の先生が事情を女の子から聴いていた時に私はまだ机の上に座っていたため、それを見ていた先生は私をものすごく叱りました。

ただ、この先生の叱り方は子どもをたたくようなこととはせず、いつも机をたたいて叱るのです。それは子どもに考えさせるような叱り方でした。このような先生でしたから私たちにとってはとても怖い先生でしたが、尊敬できる先生でもありました。

藤田 当時は体罰だって当たり前の時代であったと思うのですが、その先生は子どもをたたくようなことはせず、厳しさをもって子どもに接し、叱った後で、大きな愛情で包み込む、そんな先生だったのですね。

清水 私たちの時代の先生というのは畏敬の念をもって接するような存在でした。

しかし、最近の日本の学校における先生と子どもの関係は「雀の学校」から「メダカの学校」に代わってきたように思われます。

私たちの時代の学校は「雀の学校」で、「鞭をふりふりチーパッパ」という歌詞が示すように先生は威厳があり、尊敬される存在でした。もちろん、この鞭は体罰用ではなく指示棒のことです。

ところがいまは「メダカの学校」で、「誰が生徒か先生か」という歌詞のように、先生と生徒の距離感がなくなっています。

「メダカの学校」のよさもありますが、やはり先生は尊敬される存在でなければならぬだろうと思います。

越境して甲府第一高等学校へ進学

藤田 先ほど、清水先生は、農家の労働力から逃れるために越境入学を考えたという話をされましたが、いよいよこの話に進みたいと思います。



【略歴】
藤田晃之先生

1988 筑波大学第2学群人間学類卒業
1993 筑波大学大学院博士課程
教育学研究科単位取得退学
1995 博士（教育学）
2013 筑波大学教授
専門はキャリア教育学
日本教育制度学会理事

清水 いま考えれば、家の農作業を手伝うという経験は辛かったけれども、後の私の人生でとても大きな力になったと思うことがあります。当時は、そうした生活から逃れたいという気持ちがあるものすごく強かったです。

しかし、その頃の越境入学というのは定員の2割くらいしか認められていませんでしたから、越境で甲府一高に合格するのは相当難しく、私の地区からはそう簡単には入れません。

担任の先生からは諦めるようにという強い指導がありました。私が、私は諦めずに合格をめざして旺文社の分厚い「全国公立高等学校入試問題集」の過去5年分を夢中になって勉強しました。

父親もそうした私を見ていましたから、落ちてもいいからといって越境受験を認めてくれ、運よく合格することができました。甲府一高合格は、私の生涯でも一番うれしかった思い出です。

藤田 甲府一高に入学してからの生活はどのようなものでしたか。

清水 甲府一高に入学してからの生活は、1年目は自炊生活、2年目からは賄い付きの下宿生活でした。

学校での生活は、1年目は男女共学のクラスでしたが、2年目は男子だけのクラスになってしまいました。甲府一高の女子の割合は2割くらいでしたので、どうしても男子だけのクラスが多くなります。実はこれが私にとっては面白くない。

兄弟は男ばかり、下宿も男ばかり、学校も男子クラスで男ばかりというのは、異性に対する関心が強くなる時期ということもあって必ずしも楽しくない。

そのため、私はそれまでずっと理系志望だったのですが、理系は男子生徒が多く3年のクラス編成で男子クラスになる可能性が高かったですから、3年になる前に進路を文系に変えるという選択をしました。

藤田 えっ。教育学に對する強い思いがあつて進路を変えたのではなく、男子クラスが嫌で志望を理系から文系に変えたのですか。

清水 そうです。人生ってそんなものではないでしょうか。

藤田 では、清水先生はいつ教育学の世界に進もうと考えたのですか。

清水 これも、そんなに深い理由があつての選択ではありませんでした。

前の年に大学紛争のために東大も東京教育大学も入試が中止されていたため、私が大学受験をする年は、東大受験者が大幅に増えて難しくなるといわれるようになり、学校からも「国立を受ける生徒はランクを下げる」というような進路指導がありました。

私も一応東大志望だったのですが、突破するのはかなり難しいだろうと考えていました。でも、東京の大学には行きたかつたし、東京の大学で文系ではどこがいいか考えていた時、親戚に小学校や中学校の校長など教育関係者が多かつたという背景もあり、それでは私は大学の先生をめざそう、そのために東京教育大学を受けようと決めたのです。



内申書の右の欄に何も記入されていなかった

清水 大学受験の時、私は「内申書は開示すべきである」という、後に私の教育主張につながる経験をしました。あの頃の国立大学は1期校と2期校があつて、私は1期校は東京教育大学、2期校も1校受験することにして、内申書を2通もらっていました。

でも、東京教育大学一本で勝負することに決めましたので、本当はいけないのだけれども、一通の内申書を開けてみました。

ところが開けてびっくり。右半分には何も書いてないのです。右の方には「出欠状況」とか「行動の記録」や「性格」について書く欄があるのですが、何も書いてない。下宿の友達に相談したら、「これはおかしい。担任の先生に話した方がいい」というので、叱られるのを覚悟して担任の先生に話したら「これは私のミスだ。」といって、直ちに東京教育大学に連絡を取ってくれて、差し替えをしてもらいました。

それは、締め切りの前でしたので助かりました。というの、あの頃は大学紛争の直後で、成績だけでなく内申書も重視されるようになっていましたから（入学後にそういう話を関係者から聞きました）、内申書を見ていなかったら私は落ちていたかもしれませんでした。

この経験が、私のいまの「内申書は開示すべきである」という主張につながっているのです。私たちが大学入試の際に提出される内申書を見ても「出欠状況」を逆に記入していたり、結構ミスも見つかります。内申書を本人に知らせることは悪いことではないし、記入のミスを防ぐためにも、内申書は開示すべきなのです。

クラス編成も、やはり男女共学がいい

清水 先ほど私は、男女共学クラスで学ぶために進路を変更したという話をしましたが、基本的にこの世は男と女でなり立っているわけですから、男だけ、女だけというのはもともと不自然なのです。

ですから、旧教育基本法第5条の「男女共学は認められなければならない」（現在は削除）という法律については、高校時代の体験からも、私は「男女共学というのはクラス編成まで及ばなければならない」と強く思っていますし、大学の授業でもそのように教えています。

【東京教育大学での生活が始まる】

藤田 いよいよ東京教育大学での生活が始まりました。清水先生の大学生活はどのようなものだったのですか。

入学式の日から家庭教師のアルバイト

清水 入学式の日、サークルやクラブの勧誘活動が盛んに行われていましたが、私は「学生文化会」という主に都内の中学生や高校生を集めてスクーリングをやるサークルに入ることにしました。そうしたら、そのサークルの人から「きょうから家庭教師をやらないか」と言われ、その夜から家庭教師のアルバイトすることになり、それから就職するまでの間、私は延べ32人の家庭教師をすることになりました。

その中で小学校の4年生から大学に入るまで家庭教師をした生徒が二人いまして、その子たちとはいまでも家族ぐるみのお付き合いをしています。



東京教育大学校舎



学生文化会の仲間たち



また、この「学生文化会」は、毎年スプリングスクールとサマースクールを開催し、大学に都内の中学生と高校生を300人くらい集めて学習指導等をしていましたが、校長・教頭がいて、校務分掌があつて、テキストも自分たちでガリ版を使って作成するなど、まさに学校と同じ体験ができる楽しいサークルでした。

そして、サークルの仲間とは、パチンコ、酒、麻雀と、よく遊びました。

藤田 でも、単位を取らなければいけなかったと思うのですが、勉強の方はどうでしたか。

清水 大きい声では言えませんが、あの時代はまじめに授業をやる先生はそんなになくて、出席を取る先生も少なかった。そんな中、試験をクリアできるくらいの勉強はしていました。

しかし、毎回授業に出席して一生懸命に勉強した英語の成績がC評価で、履修登録をしただけで授業にはあまり出ないで試験だけを受けた科目の成績がA評価というような理不尽な経験をする中で、後に私の博士論文のテーマとなる「大学の単位制度」に関心を持つようになりました。

教育制度学との出会い

藤田 いまのお話で、清水先生が「大学の単位制度」に関心を持つきっかけについてはよくわかりましたが、教育制度学という学問領域に進むようになったのはどのようなきっかけがあつたのですか。

清水 それは真野宮雄先生との出会いが一番のきっかけです。真野先生は「学生文化会」の顧問でしたが、実は旧制甲府中学の出身で私の大先輩でもありましたから、もうこれは運命的の出会いだなと思ひ、大学院は真野先生に師事しようと教育制度学に進むことにしたのです。

藤田 大学院に進んでからは研究一筋ですか。

清水 そんなことはありません。勉強もしましたが、よく遊びました。

その頃、桑原敏明先生も愛知教育大学から戻られていて、真野先生も桑原先生も当時はかなりのスモーカーでしたから、煙の中で知恵を出しあうという熱のこもった研究会が毎週行われていました。そして、研究会が終わると必ず池袋に行つて、先生も加わつて飲んで麻雀をやるといふ生活でした。

清水先生の研究テーマ

藤田 清水先生の研究テーマを見ますと、どちらかというと高等教育に対する関心が強いように思われますが、初等中等教育の方に研究テーマを置くことを考えたことはなかつたのですか。

清水 私の学部時代の卒業論文は、初等教育と中等教育のアーティキュレーション（接続）でした。そして、大学院を出て最初に勤めたのが長野市にある清泉女学院短大で、ここには幼児教育科がありましたから、私はそこで就学前教育と小学校教育のアーティキュレーションの研究をしました。そして筑波大学に戻つてきたのが「大学研究センター」で、今度は高等教育の研究をすることになりましたので、ここでは中等教育と高等教育のアーティキュレーションの研究もいたしました。

ですから私の研究は高等教育に止まるものではなく、アーティキュレーションを軸として、就学前教育、初等教育、中等教育、そして高等教育まで全部つながつた研究になっているのです。

博士論文への挑戦

清水 私たちの時代はいまと違って、博士号を取る人はほとんどいませんでしたし、私も博士号を取ろうなんて考えていませんでした。ところが、筑波大学でも博士号を持たないと教授になれない時代になり、私も博士論文に挑戦しなければならなくなりました。

しかし、私がそれまで主として研究してきたアーティキュレーションの研究というのは、学校段階の接続関係の研究ですから、就学前教育から高等教育さらには生涯学習までが研究対象になりますから、ものすごく幅が広く、焦点が絞りにくい。とても個人の博士論文のテーマにできるような研究ではありません。

そこで、何をテーマにしようかと考えていた時に、私はアメリカの教育制度研究をフィールドにしていたから、在外研究員制度を活用して「アメリカと日本の高等教育における単位制度の比較」をテーマにしようと思ひついたのです。

この研究テーマについては、教育学には関係のない筑波大学の全く専門の違う先生から「清水さん、いいテーマを見つけたね」とほめられました。

藤田 高等教育の単位制度については、所与の前提とされてはいるものの、わが国の単位制度はアメリカの単位制度の考え方とは大きく違つていたし、誤解もありました。そういうことが清水先生の研究で明らかにされ、私たちにとても大変勉強になりました。

清水 この単位制度の問題は、いま大学教育改革の中でも大きな課題になっており、私の研究がわが国の単位制度の改革に少しでも役に立っているならば、こんなうれしいことはないと思ひつています。

【清水先生が研究者として影響を受けた先人たち】

藤田 ここまで、清水先生の子どもの時代から、研究者としてどのように歩んでこられたかをうかがつてきまし

たが、歴史的文脈の中で、清水先生が大きな影響を受けた先人にはどのような人がいますか。

ジョン・デューイ (1859～1952)

清水 教育制度研究で一番影響を受けたのはアメリカの教育哲学者であり社会思想家であるジョン・デューイです。彼の著書「学校と社会」の第3章は「教育の浪費」というタイトルがついていますが、ここでジョン・デューイは「制度というのは硬直、固定化してはいけない。常に弾力的でなければならぬ」といつています。この言葉は、私の教育制度研究の基本になっています。

そして、私たちが何のために教育制度の研究をするのかというと、それは子どもの学習する権利を保障するためであると考えていますが、このことについてもジョン・デューイは「子どもの発達」教育」であると述べています。

ジャン・ジャック・ルソー (1712～1778)

清水 18世紀にフランスで活躍した哲学者ルソーも影響を受けた先人の一人です。

ルソーは、「自然に帰れ」「教育とは自然の性、すなわち天性に従うことでなければならぬ」と主張し、子どもに焦点を当てた教育論を展開しましたが、このルソーの子どもを見る目、子ども観は、今日でも色あせていないと受け止めています。

ヨハン・ハイน์リッヒ・ペスタロッツ
(1746～1829)

清水 そしてもう一人、影響を受けた先人に、スイスの教育実践家ペスタロッツがいます。

ペスタロッツは「教育は、頭 head 胸 heart 手 hand の調和のとれた発達にある」としています。つまり、頭Ⅱ考える力、胸Ⅱ人を思いやる心、手Ⅱ物をつくる技術力の3日の調和ある発達をめざすところに教育の目的を置いています。

これらの先人たちの教育観を見ると、いずれも子ども

を中心に考えており、子どもの発達や学習の権利を保障するという私たちのめざす教育制度研究につながるものを見ることができるとです。

真野宮雄先生と桑原敏明先生

清水 そして、真野先生と桑原先生も私の教育制度学研究を支えてくれた大切な二人です。

真野先生は「人間の発達をめざす生涯学習体系」を研究テーマとしていましたし、桑原先生はいつも「教育は愛である」といつていました。

この二人の先生は、いま紹介したデューイやルソーやペスタロッツと同じように、子どもを中心とした教育研究を生涯のテーマとして、長い間研究を続けてこられました。

藤田 真野先生と桑原先生は、私も直接指導を受けた一人ですが、お二人の「子ども中心の、愛情を核とした教育研究」からは、いろんな意味でサゼッションをいただいています。

【わが国の教育制度学の歩み】

藤田 ここまで、清水先生の子どもの時代の話から、教育制度研究者になってどんな研究をしてこられたのかをうかがってきましたが、ここで、わが国の教育制度学の歩みを少し振り返ってみたいと思います。

教育制度学は若い学問領域

清水 わが国の教育制度学の歴史は浅く、教育制度学の研究室を持つている大学は、筑波大学のほかに大阪大学と北海道大学くらいしかありません。ほかの大学では、教育行政や教育経営の研究と一緒にやっているところが多いようです。

そして、研究テーマも、最初は先進国の教育制度を学ぶという時代が続きましたが、だんだん外国に学ぶという受動的な研究ではなく、課題の多い日本の教育

制度をどう改革していったらいいかというような課題解決型あるいはクリエイティブな観点からの研究も増えてきたように思います。

教育制度学会の立ち上げ

藤田 そういう歩みの中から、清水先生たちが中心になって「教育制度学会」を立ち上げます。

この「教育制度学会」の誕生にはどんな経緯があったのですか。

清水 1984年に臨時教育審議会が設立されてから、わが国ではさまざまな教育制度改革が進められてきましたが、この制度改革はきちつとした研究の裏づけがないまま政策主導でどんどん進められていました。これではいけない、もっと実証的な研究をして、教育制度改革に貢献し、教育制度改革の研究的フォローもしていかなければならないということで、1993年の10月1日に学会を立ち上げたのです。

【これからの教育制度学の課題】

藤田 教育制度学会が誕生して20年。教育制度学の研究も、最初の頃の外国に学ぶ研究から実践的な研究に代わってきました。しかし、わが国はいまもさまざまな教育課題をかかえ、こういう教育課題に対し教育制度学は何をしていかなければならないのが問われています。

教育制度学の課題や役割について、清水先生はどのように考えているかおうかがいしたい。

子どもの学習する権利の保障が一番の課題

清水 ひとことではいえば、「子どもの学習する権利を保障するという大命題に応える」ということが教育制度学が一番の課題であり役割であると考えています。

そして、子どもそのものの研究も、教育学からのア

プローチだけではなく、発達心理学や認知心理学などの周辺科学と連携協力しながら研究を進めていくことも必要だと考えています。

藤田 確かに、いじめや不登校の問題など、教育制度だけの問題としてはとらえられない問題がいっぱいありますよね。

「学習」から「学修」への転換が求められている

清水 いま、高等教育では「学習」から「学修」への転換が求められています。「学習」は学び習うということであり、真似る・模倣するという意味がありますが、「学修」には模倣するだけでなく、あらゆる方法で知識や技能を獲得するという意味があります。

わが国は明治以来、どちらかというと「学び習う」まねぶ」というやり方で世界の教育大国になってきました。

しかし、グローバル時代を迎えた今日、わが国の高等教育は、アクティブ・ラーニングや能動的学修のような主体的な学びが求められるようになってきているのです。

そして、この「学習」から「学修」への転換は、高等教育だけでなく、初等中等教育でもキャリア教育でも、学びの形がこの方向に変わっていくことが期待されています。

ですから、教育制度学は、こういう新しい時代の教育のあり方を構想していくためにも、「子どもの研究」や「学修概念の研究」にも踏み込んでいくことが、ますます必要になってくるだろうと思います。

藤田 そうしますと、教育制度学の研究対象は非常に範疇が広がりますが、それはこの学問の宿命として受け止めた方がいいのですね。

清水 そうですね。一般の人は、教育制度学というと、組織とか構造とか仕組みを研究する学問のようにとらえています。そうではないのです。私たちは、制度というのは、内容も方法も、原理的なものも本質的なものもすべて含んでいると考えていますから、教育制

度学の研究対象は幅広いものになるのです。

藤田 そして、そういう幅広い研究対象に向き合う時であつても、私たちが忘れてならないのは、先ほど清水先生が繰り返し指摘されたように、「子どもの学習権をどう保障していくか」ということが軸になっていかなければならないのが教育制度学の特徴なのです。

「若い教育学研究者へのメッセージ」

藤田 いよいよこのシリーズも大詰めを迎える時が来ました。そこで、これから教育学を勉強しようとしている若い世代に対して、清水先生が伝えておきたいことをおうかがいしたい。

教育学を仕事とする研究者に必要なこと

清水 教育制度の研究者のみならず、教育学を生涯の仕事としてしようと考えている人たちに伝えたいことは2つあります。

一つは「基本的な概念を徹底的に調べる」ということです。研究対象の定義、歴史的な概念の成立過程などについて徹底的に調べることなくして研究は成り立ちません。

二つ目は「歴史に学ぶ」ということです。私は歴史に学ばずして改革はないと信じています。歴史には必ず未来のための新しいヒントが含まれているのです。

「基本的な概念に学ぶ」とことと「歴史に学ぶ」とことはどんな研究にも必要だと考えています。

研究は楽しくなければならぬ

清水 若い研究者にもう一つ言いたいことは、「研究は楽しくなければならぬ」ということです。苦になるような研究だったらやめた方がいいと思う。確かに、論文や課題を仕上げるのは大変ですが、新しい文献が見つかった時、新しいことを発見した時、そのときの

喜びは何ものにも代えがたいものがあります。ぜひ、ご自分の研究テーマの中に楽しさを見出して欲しいと思います。

わが国の教育が優れていることを自覚してほしい

清水 そして、研究者のスタンスとして、私は、「わが国の教育の優秀さを自覚しておくことが必要である」と思っています。

多くの教育研究の書き出しは、暗い話、ここはだめだという話から始まります。

わが国の教育は、江戸時代の寺子屋や藩校の教育にも優れたものがありましたし、一九七五年のアメリカの議会で「日本の初等中等教育は世界一である」という報告がなされたように、わが国の教育は世界に誇れるものなのです。



高等教育だつて決して負けてはいません。「大学のゼミ方式」「学部段階での卒論」「大学体育」などについては、もつと世界に発信していく必要があると思っています。

グローバル時代を迎えたいま、わが国の教育研究も「わが国の教育は優秀である」という自覚の上に立つて展開していく必要があるのではないのでしょうか。

筑波大学で学んでいる学生へのメッセージ

藤田 最後に、教育学専攻の学生ということではなく、いま筑波大学で学んでいる学生に向けてメッセージをお願いしたいと思います。

清水 私が今度、理事長・学長になったこの山梨県立大学にも、筑波大学で学んだ人が何人かいます。みな優秀です。

筑波大学の中にと、なかなかそのことがわからないのですが、外に出るとよくわかります。

ですから、筑波大学で学ぶ学生の皆さんは、自信と誇りをもって頑張つて欲しいと思います。

藤田 私も、諸先輩の方々の社会に出てからの業績や貢献度を見ましても、筑波大学は優れた人材育成機関であると感じています。学生の皆さんにはそういう筑波大学で学んでいる喜びをかみしめてほしいと思っています。

藤田 きょうは、清水先生の子ども時代の話から研究者としての歩みまでおうかがいし、先生の「アーティキュレーションの研究」も「単位制度の研究」も「男女共学の主張」も、先生の生活にしっかり根を下ろしたところから出発し、ち密な研究に裏打ちされていることを知りました。

そして、教育学研究に身を置く一人として、教育学度学という学問がきわめて実践的な学問で、いつも「子どもの学習する権利をどう保障していくか」ということを念頭において研究する学問であることを再認識することができました。本当にありがとうございました。

茗溪・東西南北



民間企業や官公庁などで働く卒業生の異業種交流会 茗溪・筑波大学産業人会(仮称)立ち上げへ

東京都茗溪会が主催する異業種交流会、仮称「茗溪・筑波大学産業人会」が、去る6月17日(水)19時より、25名の参加者を迎えて茗溪会館でスタートした。

開会に先立ち、産業人会立ち上げの主旨を事務局から説明、教育界以外の卒業生にとつても有意義な交流会を持つことで、知見を高め、人脈を広められる会となることを願う旨の話があった。

続いて、当会の事務局でもある㈱キャリアアンカー代表・塩津氏による「企業の人事・組織戦略の潮流」についての話題提供の後、乾杯・懇親会・名刺交換会へと移行した。

2時間半にわたる第一回であったが、参加いただいた方からは概ねご好評をいただいたものと思われる。事務局としては、今後とも異業種の方々との交流を息長く続けられるように、より多くの方々が気軽に参加できる会となるように、運営に努める所存である。

この会は今後毎月第3水曜日の19時より、茗溪会館で行う予定である。開催予定などお知らせをご希望の方は、mailto:tokyo@meikai.or.jp まい「一報いただければ幸いです」である。

(事務局/真当・塩津)

今後の予定

- 第2回(7月15日): 業界情報①「広告業界」
- 第3回(8月19日): 業界情報②
「放送・マスコミ業界」
- 第4回(9月16日): 業界情報③
「エネルギー産業」
- 第5回(10月21日): 業界情報④
「総合商社・グローバルビジネス」

(上記のテーマは、あくまでも例示で、会の進捗状況に応じてふさわしい話題提供者を見つけ、テーマを設定する予定です)



筑波大学は今

よみがえる湯島聖堂本尊孔子像 彩色復元特別展を開催

本学附属図書館から、2000年に江戸前期の美術品が多数発見されました。その後の研究により、これらは本学の起源ともいえる湯島聖堂に飾られていたものであり、日本における儒教美術に関する一級品の文化財であることが判明しました。以後、本学は、日本における儒教美術およびそれらの復元に関する研究に注力しています。

この度、湯島聖堂大成殿孔子像の彩色復元が完成し、オリジナルの鮮やかな造形がよみがえりました。彫塑を専門とする柴田良貴教授（芸術系）が像の原型を復元し、日本画を専門とする程塚敏明教授（芸術系）がその乾漆像に彩色したものです。

完成を記念して、この彩色復元像を中心に、本学が所蔵する湯島聖堂・昌平坂学問所伝来の美術資料ならびに復元研究の成果を、4月3日～19日に、附属図書館および大学会館アトスペースにて一般公開しました。



孔子像の彩色復元像

剣道世界選手権 竹ノ内佑也選手の活躍で日本3連覇！

昨年の全日本剣道選手権大会で、43年ぶりの学生優勝を果たした竹ノ内佑也選手（体育専門学群4年）が、3年に1度開催される世界選手権に出場しました。



写真：望月 仁／アフロ



写真：望月 仁／アフロ

初出場となる竹ノ内選手は、団体戦初戦の先鋒で日本に勢いをつける2本勝ち。決勝戦でも先鋒を務め、得意のメンで見事勝利し、強敵韓国を2-1で破ったの優勝に大きく貢献しました。個人戦決勝では網代忠勝選手（兵庫県警）に延長戦の末に惜しくも敗れ、準優勝となりました。

タイ王国のシリントーン王女殿下が「次世代がん治療」の開発実用化への取り組みを視察

4月23日にタイ王国 Maha Chakri Sirindhorn 王女殿下が、つくば国際戦略総合特区の先導的プロジェクトの1つである次世代がん治療（BNCT）の研究拠点「いばらき中性子医療研究センター」を視察されました。



前列左から松村明病院長、シリントーン王女殿下、吉岡正和高エネルギー加速器研究機構名誉教授

シリントーン王女は、はじめにJ-PPARC研究棟の大会議室にて、松村明病院長および熊田博明中性子医学研究開発室長からホウ素中性

子補足療法（BNCT）の仕組みや特徴等について説明を受けた後、BNCTの研究拠点である「いばらき中性子医療研究センター」の研究開発現場を視察されました。今回の視察をきっかけにタイ王国でも日本が先導するBNCT研究に対する理解が深まることが期待されます。

エンパワースタジオ竣工お披露目を開催！

5月12日に、エンパワーメント情報学プログラム（EMP）の拠点となるエンパワースタジオが竣工し、関係者および学内向けにお披露目会が行われ、約90名が出席しました。

お披露目会は、永田恭介学長および大田友一EMPプログラム責任者の挨拶から始まり、テープカットが行われた後、岩田洋夫プログラマーの案内のもと、スタジオ内の見学や展示機器の1つである「トーラストレッドミル」のデモンストラーション・体験などが行われました。



「トーラストレッドミル」のデモンストラーションを見学する永田恭介学長

筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育センター開設記念式典を挙行

本学は「筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育センター」の開設にあたり、5月18日に開設記念式典を挙行了しました。本学は、平成24年に国立病院機構が運営する霞ヶ浦医療センター内に「筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育ステーション」を開設し、大学と地域病院の連携による医療教育体制を整備してきました。この度、新たに大学教員2人を増員した5人体制として、さらなる地域医療の充実を図ることになり、名称をステーションからセンターに変更しました。

すなわち、開国から明治維新による近代国家が成立する1867年までの15年間では、(3a,b)のわずか6語であった借入日本語は、(3c, d, e)のように次第にその数を増やしていく。これらの日本語のほとんどは日本特有の文物を表すものであり、またこれらの語の紹介には特定の個人ではなく、かなり多くの英米人や日本人が関わっている。

(3) 1854～1899の45年間

- a. 1850年代：hara-kiri, tycoon「大君」, hakama
- b. 1860年代：shakudo「赤銅」, hibachi, sasanqua「山茶花」
- c. 1870年代：ronin, seppuku, jinrikisha, ju-jitsu「柔術」, raku「楽(焼)」, renga「連歌」, shiitake, tanka「短歌」, ukiyo-e
- d. 1880年代：sashimi, shoji, sumo, tofu, Satsuma「薩摩(みかん)」, netsuke「根付」, kombu, sensei, tsukemono, kimono, tansu, romaji, judo, tsuba「鐔」
- e. 1890年代：kakemono「掛け物」, geisha, katsuobushi, sika, nori, banzai, kudzu「葛」, shakuhachi, sushi, katsura「桂、鬘」, kamikaze, tsunami, bushido, haiku, hokku「発句」, kabuki

ところが、20世紀に入り、日本が欧米列強と共に軍国主義化し、2度の世界大戦に関わるようになると、英語に借入される日本語の数は(4)のように伸び悩む。

(4) 1900～1945 (終戦までの45年間)

- a. 1900年代：wasabi, tsutsugamushi「つつがむし(病)」
- b. 1910年代：shubunkin「朱文金(金魚の一種)」
- c. 1920年代：kanji, sukiyaki, tempura, kendo, origami
- d. 1930年代：onsen, wabi「侘び」, kyu「級」, zaibatsu, shochu, sumie「墨絵」
- e. 1940年代：dojo, nisei, sansei, tosa「土佐(犬)」

* medaka (20世紀前半)

5 終戦から20世紀末までの40年間

日本が敗戦の痛手から徐々に立ち直り、経済復興を成し遂げ、再び国際社会の仲間入りをするようになると、英語となる日本語の数も(5a)のように増え、20世紀後半になると、(5b)のような日本食ブームの先駆けとなる語や日本古来の武道に関わる語が増える。

- (5) a. 1945～59：mama-san「女将」, bonsai, hibakusha「被爆者」, keirin, judouka「柔道家」, pachinko, kata「(武道の)型」, karate, aikido, sumi, keirin
- b. 1960～85：chichi「(女性の)乳」, kanban, nashi, yakitori, ryokan, yakuza, karateka「空手家」, shiatsu, karate-chop, nunchaku「ぬんちゃく」, shabu-shabu, karaoke, maki zushi, tamari「たまり(醤油)」, anime, enoki「榎(茸)」

6 21世紀の始まりから今日まで

ODE³の編集の最終段階の数年間に日本語が英語になっていたとしても、2010年の発行日までに辞書に盛り込めなかったと思われる。ただし、(6a)の2語はODE³に収録され、21世紀初頭と明記されていることから、出版の2～3年ほど前の2000年から2007～8年の間に英語化したと考えられる。

- (6) 21世紀初頭：kakuro「カクロ」(数字のパズル。＜加算＋クロス＞), sudoku「数独」(パズルの一種。＜数字＋独身＞)

一方、OED²に記載がなく、ODE³には借入の時期が記されていない日本語は51例ある。これらの語が英語となった時期が特定できれば、英語における最近の日本語の受容の様子がより詳しくわかると思われる。幸い、これらの語はODE³に盛り込まれていることから、1986～7年頃から2007～8年の約

20年間に英語となったと推定できる。

さらに幸運なことに、ODE³の初版に当たる *The New Oxford Dictionary of English* (以下、NODE) が手元にあり、今回これが強力な情報源となった。NODEは1998年に出版されたが、その後この辞典はODEと名称が変えられ、2010年に第3版が刊行された。それゆえ、借入時期が不明の51語のうち、NODEに収録されていないものは1995～7年以降に新たに英語となったとみなせる。

そこで、51語を(7a, b)のように区分した結果、1986～7年頃から1996～7年頃までの約10年間は、(7a)の例から、日本食や柔剣道・相撲などの武道、および盆栽、さらには高度成長を続けていた日本企業の経営の影響がかなり強かったことがわかる。ところが、それから10年くらい経つと、(7b)のように、日本食ブームや武道は根強い影響を維持続けているが、盆栽や企業経営の分野はほとんど影響を及ぼさなくなったといえる。

(7) a. 1986～7年頃から1997～8年頃までの約10年間

- i. 食品・料理：arame(海藻), daikon, gobo, mirin, mizuna「水菜」, ramen, wakame
- ii. 武道：ippon, kumite, oshi, rikishi, tachi, tanto, wakizashi
- iii. 植木：hiba, keaki
- iv. 商工業：kaizen, keiretsu, sogo shosha「総合商社」, sokaiya
- v. その他：gaijin, issei, juku, manga, ninja, ninjutsu, otaku「おたく」, reiki「霊気」, ryu「流(派)」, seiza

b. 1996～7年頃から2007～8年頃までの約10年間

- i. 食品・料理：bento, edamame, hamachi, kaiseki, ponzu「ポン酢」, reishi「灵芝」, seitan「植物性蛋白質」, shiso, tataki, toro, umami「旨味」, Wagyu
- ii. 武道：budo, dohyo, kyudo, mawashi
- iii. 植木：なし
- iv. 商工業：なし
- v. その他：butoh「舞踏」, hikikomori, kawaii, keitai, robata「炉端」

まとめ

過去600年ほどの間に英語になった177の日本語を分析した結果、その多くは日本特有の文化に関わる語であり、それゆえ、英米人は自国にない文物や概念を日本語から積極的に借入していたことがわかった。同時に、これらの日本語を日本人の目で見ると、過去の日本の国情を知る貴重な情報源となっていて、鎖国や戦争は異文化交流を妨げる要因となっていたこと、および、国同士の交流が盛んになると、そのことが言葉に直接反映されるということがよくわかった。今から10年程の後にODEの第4版が出版されれば、その中の借入日本語を見れば、2010年以降の日本がどのような分野で欧米に影響を与えたかがわかるであろう。楽しみに待ちたい。

講演後の質疑応答も活発で、楽しいひと時であった。



藤原教授の英語のはなし 第11弾

「英語になった日本語」

講師：藤原 保明 (筑波大学名誉教授)



「ハラキリ」、「ゲイシャ」、「ツナミ」などは古くから英語になっているが、最近はどうな語があるのか探ってみた。

1 最新の情報を英語辞典から探る

世界最大の英語辞典『オックスフォード英語辞典』(*The Oxford English Dictionary*) (1989年に第2版刊行、以下OED²)には約60万語が収録されている。最も古い時期の古英語の語彙は約5万語であることから、千年ほどの間に英語の語彙は55万語増えたことになる。そのほとんどはラテン語、フランス語などの外国語からの借入による。イギリスでは、宗教改革、ルネッサンス、産業革命などにより、新たな物や概念を表す必要が生じると、新しい語が作られ、外国語が借入された。

日本語も英語の語彙の増強に貢献してきたことから、その実態を探ってみた。OED²は刊行後26年も経過し、借入語の最新情報を提供できないことから、中規模の辞書ではあるが約35万語を収録している最新の*Oxford Dictionary of English* (2010年に第3版刊行、以下、ODE³)から日本語に由来する英語を抽出し、分析を行った。

2 鎖国体制確立以前

江戸幕府の鎖国以前に日本にやってきた西洋人は、1543年に種子島に漂着し鉄砲を伝えたポルトガル人、その6年後の1549年に日本にキリスト教を伝えたスペイン人宣教師フランシスコ・ザビエル(1506-52)、および、1600年にオランダ船リーフデ号で豊後に漂着したイギリス人航海士ウィリアム・アダムズ(1564-1620、日本名、三浦按針)とオランダ人のヤン・ヨーステン(Jan Joosten, -1623、日本名、耶揚子)など、ごく少数であった。しかも、ザビエルは故国への帰路に死亡し、アダムズとヨーステンは徳川家康の外交顧問として活躍したが、アダムズは平戸で病死し、ヨーステンも航海中に難破し、日本語を広く海外に広めることはなかった。

このような状況により、鎖国体制が確立する1639年以前に日本語がイギリスに伝わり、英語として用いられることはごくまれであり、(1)のような日本語が英語となったのには特別な理由がある。(1a)のbonzeはザビエルの手紙に記されていたものであり、後にこの手紙は英訳され、『聖フランシスコ・ザビエル全書簡』として出版された。次に、(1b)の6語は平戸商館長を務めたイギリス人のリチャード・コックス(1566-1624)の『イギリス商館長日記』(1615-22)に由来する。この日記は当時の商館の経営状態や日英交渉を知る貴重な資料であり、その中のいくつかの日本語が英語となっている。一方、(1c)のinroはアダムズがイギリスに送った手紙に

記されていたものである。

- (1) a. bonze「坊主」(1552、英訳は1677)
- b. shogun (1615), kami「神」, s(h) amisen, tabi, tatami (1616), tai「鯛」(1620)
- c. inro「印籠」(1617)

3 鎖国から日米和親条約以前の215年間

徳川幕府の鎖国体制が確立すると、日本で唯一の貿易地は長崎の出島のみとなり、平戸にいたオランダ人はここに移住させられた。それ以降、日米和親条約を締結する1854年までの215年間、出島に出入りする西欧人だけがヨーロッパに日本の文物を伝え得るという状況であった。

それゆえ、この間に英語になった日本語は(2)に示したごくわずかなものに限られた。ちなみに、(2c)の17の日本語は1727年から英語として用いられ、しかも数が他の年よりはるかに多いが、いずれもドイツ人医師で博物学者のエンゲルベルト・ケンペル(1651-1716)の『日本誌』に依存している。彼はオランダの東インド会社に医師として着任し、その後、日本に滞在し(1690-92)、この間に日本の社会・政治・宗教・動植物を観察し、それを書物に著し、ヨーロッパ人の日本研究、日本観に大きな貢献をした。

- (2) a. 1687年: sake
- b. 1696年: soy「醤油」
- c. 1727年: ad(z) uki, ginkgo「銀杏」, hinoki, kaki, kana, katakana, koi「鯉」, matsuri, mikado, miso「味噌」, samurai, satori「悟り」, Shinto「神道」, shoyu, torii, tsubo「つば」, zazen
- d. 1822年: hiragana
- e. 1823年: zori
- f. 1837年: akebia「あけび」
- g. 1839年: daimyo

ちなみに、東インド会社は、17世紀初頭にイギリス、フランス、オランダなどの西欧諸国が胡椒や茶などの物産をアジアからヨーロッパに輸入することを主な目的として、特別な許可を与えて設立させた会社の総称であり、当時、日本にやってきた西欧の商人はたいいていこの会社を拠点としていた。

4 開国から世界大戦終了までの91年間

300年にわたる鎖国体制が崩壊すると、欧米諸国との交流が盛んとなり、多くの文物や概念が日本に流入し、日本の物産・風俗・習慣なども海外に広まっていった。英語に借入される日本語の数も開国以前と比較して飛躍的に増大した。

このことは(3)のように10年刻みで表記すると明白となる。

第19回 茗溪・筑波 グランドフェスティバル 開催

平成27年6月13日(土)
筑波大学大会館



大会副会長 玉川 信一 副学長



大会実行委員長 西川 博昭 氏

茗溪・筑波グランドフェスティバルは、筑波大学の卒業生及び前身校である東京教育大学の卒業生、ならびに在学生と教職員が集い、世代を超えて親睦を深め、筑波大学の更なる発展に寄与しようという願いから、平成8年1月にはじまり、今年で19回を迎えました。

当イベントは近年、学群の持ち回りにより企画・運営をお願いしており、今回は情報学群と芸術専門学群の担当ということで、シンポジウムメインテーマを「情報」と「芸術」が融合した、「メディアアート」として開催し、各方面で活躍されている関係者や本学教員、大学院生による講演及びパネルディスカッションを行いました。

オープニングセレモニーでは、海外出張のため当日欠席となった永田恭介学長に代わり、大会副会長である玉川信一学生担当副学長から「本学がもつパワー、本学に秘められた可能性などにより、新たなムーブメントを創造し多くの皆様に魅了することを期待する」旨の挨拶がありました。次いで、大会参与としてご挨拶をいただいた茗溪会江田昌佑理事長からは「『桐の葉』のもとに同窓の交流が一層活発になることを願いたい」とお話しいただきました。さらに、今大会実行委員長の西川博昭情報学群長からは企画の説明と大会への支援に対する謝辞があり、最後に江田茗溪会理事長から玉川副学長に対し援助金の贈呈が行われました。

引き続き行われたシンポジウムでは、まず、女子美術大学アートデザイン表現学科メディア表現領域教授季里氏より「メディアテクノロジーと私」をテーマに、時代ごとのテクノロジーの変遷を紹介いただきながら、自身が手掛けた事業や作品などについてお話しいただきました。

次に登壇いただいた、本学システム情報系教授 三谷純氏からは「Computational Origami Art」をテーマに、自身の研究であるコンピューターグラフィックスの立体形状設計技術を駆使した折り紙による造形を紹介いただくとともに、さらなる応用の可能性などについてお話しいただきました。

さらに、本学大学院（グローバル教育院エンパワーメント情報学プログラム）1年 大図 岳氏からは、「プログラミングが表現者に与える翼」をテーマに、自身が芸術専門学群在籍時にプログラミングの魅力に目覚められて同プログラムに進学された経緯やこれまで生み出した作品などについてお話しいただき、プログラミングをはじめとする電子技術による表現の幅のさらなる拡張についてお話しいただきました。

最後に、本学図書館情報メディア系助教 落合陽一氏から、「魔法の世紀」表現技術がメディアアートを拡大する」をテーマに、超音波を用いた自身の研究成果の紹介を交えながら、コンピュータテクノロジーが成熟期を迎えた現代におけるメディアアートの展望などについてお話しいただきました。

また、途中行われたパネルディスカッションでは、学生委員の進行により、今大会の実行委員長である本学西川博昭情報学群長、同副委員長である中村伸夫芸術専門学群長にもコーディネーターとしてご参加いただき、講演者4氏を中心に、今後挑戦したい分野や、「情報科学」と「芸術」の融合に係る今後の可能性などについて、それぞれの専門分野から活発な意見交換が行われました。参加者からも多くの質問が寄せられるなど、会場内一同、興味深い内容に対し熱心に耳を傾けていました。

シンポジウム後に開催された懇親会では、応援部WINSによるパフォーマンスやメッセージソング「IMAGINE THE FUTURE」の披露、宣揚歌「桐の葉」の合唱などが行われ、終始なごやかな雰囲気包まれていました。会場内では世代や立場を超えた交流・意見交換が活発に行われ、参加者にとって有意義なひと時となりました。

最後になりますが、茗溪会江田昌佑理事長をはじめ、関係者各位の多大なるご支援に深く感謝いたします。

（国立大学法人筑波大学 連携・渉外室）



大図 岳氏



季 里氏



落合 陽一氏



三谷 純氏

第41回 宿舍祭(やどかり祭)

平成27年6月5日(金)～6月7日(日)



芸術専門学群のおみこし



「やどかり祭」のたれ幕

第41回

宿舍祭(やどかり祭)を

終えて

委員長 小西 湖南

知識情報・図書館学類3年



委員長 小西 湖南

今年で第41回をむかえるやどかり祭は筑波大学とほぼ同じ歴史を歩んできた伝統あるお祭りです。そんな伝統あるお祭りの委員長として名を残すことができて嬉しく思います。私はもともとこのような団体のまとめ役になるような柄でもなく、昔からそういうポジションを避けてきた人生でした。しかし、先代から委員長を任命され、大好きなやどかり祭の委員長になると聞き、気づいたらなっていました。就任した直後は力不足を感じ、なかなかうまく纏められず情けない思いもしました。「このままではいけない。変わらなければ」という思いで、春休みにヒッチハイクで鹿児島へ。往復3000kmをヒッチハイクと徒歩のみで移動しました。その中で多くの人と出会い、いろんなことを考えさせられ、自分の中での

「委員長とはどうあるべきか」が形作られた気がします。こんな私を慕ってついてきてくれた後輩と支えてくれた同期には本当に感謝してもしきれません。

準備期間で苦労したことは、実行計画書を詰めていく段階で何度も見直しをしていたことです。宿舍祭実行委員会では実行計画書を各担当に書いてもらい、私を含めた上層部と面談しながら計画書を詰めます。担当によってはこれを5、6回も繰り返すことがあります。担当は何十個もあり、時間も精神力も削られるのでこの時期は委員のみんながギリギリしていました。そんな努力で作った実行計画書も、大学側に提出すると各所ミスや学生では至らなかった点があり、戻されることもあり

ました。そういう時は悔しい気持ちをグッとこらえて、祭の成功のためにがんばっていました。今年のやどかり祭は前夜祭が雨で模擬店や一部の企画が中止となってしまい、多くのみなさまにご迷惑をおかけしました。雨天時の対策はしていましたが、いざとなるとドタバタし、対応が遅れるところも多々ありました。しかし、本祭は一転してすばらしいほどの快晴。模擬店も企画もすべて順調に進めることができ、最後のゆかたコンテストでは例年以上の盛り上がりを見せていたと思います。新企画である「大学生クイズ」は、進行が少しだれてしまい誰の目から見ても失敗でした。ただ、改善点は目に見えてわかったので、そういう意味では来年に繋げられる結果に終わり満足しています。

我々宿舍祭実行委員会は、入学したばかりの新生に交流の場を設けたいという想いでやどかり祭を作っています。私自身、1年生の時にこの祭を通してたくさんの友達が増えた覚えがあります。閉会宣言をしたときの新生の笑顔がその答えだったと思います。新生が、この祭を通してできた仲間と共に、今後の学園生活と楽しんでいただければ、実行委員としてこれほど嬉しいことはございません。以上です。

祭に関わってくれたみなさん、ありがとうございます。第41回、大成功でした。

茗溪学園だより

インターハイ・全国大会出場

今年も、部活動の活躍の報告が続々と寄せられています。高校部では、剣道部が女子個人戦でインターハイ（近畿大会7月末～）出場を決めました。茨城県は剣道のレベルが高く、県代表が全国優勝するなど全国レベルでもトップにあるため、厳しい県予選になるのですが、その難関を見事突破しました。本校にとってはこの剣道のインターハイ出場は快挙といえるものです。他にも、体操部女子2名が個人戦での出場を果たしました。6月に行われた関東大会へは、ラグビー部、剣道部、体操部、バドミントン部、水泳部などが出場しました。ラグビー部はBブロックで優勝し、春の選抜大会出場は逃しましたが、冬の花園大会での上位進出に向け、好感触を掴んだようです。

中学部では、ラグビー部が関東大会決勝に進出し、一進一退の接戦でしたが、僅かに及ばず2点差で敗れ準優勝となりました。しかし、関東地区代表として、全国大会5年連続5回目の出場となりました。9月開催ですが、それまでに大きく成長し2年ぶり2回目の全国優勝を目指します。また、中学3年女子が、フェンシング・フルレの県大会で優勝しました。本校初の競技種目ですが、今後の活躍が期待されます。ご声援お願いたします。



中学ラグビー部関東大会決勝戦
果敢に攻めるが逆転には至らず 熊谷ラグビー場にて

理事長 校長が交代しました

今年度、学校法人茗溪学園の役員改選に当たり、平成19年12月より7年6か月にわたり理事長を務めてこられた西野虎之介氏が退任され、新理事長に中川喜久治氏が就任いたしました。また、8年間にわたって校長を務めた柴田淳の定年退職に伴い、この4月より新校長に田代淳一が就任いたしました。



中川 喜久治 61歳
(なかがわ きくじ)
中川ヒューマン工業(株)
代表取締役社長
平成16～22年
茗溪学園父母会会長
平成25年から
茗溪学園理事・評議員

この度の理事会において選任され、茗溪学園理事長をお引き受けすることになりました中川喜久治です。誌面をお借りしまして茗溪会の皆様にご挨拶申し上げます。

西野前理事長が高齢を理由に理事長交代を希望され、今回の改選で新理事長の選任が行われることになりました。そして、思いもかけず私が、理事の皆様からのご推薦をいただきましたことは身に余る光栄です。4人の子どもたちが大変お世話になった学園に、少しでも恩返しをしたいという思いもあり、微力ながら、お引き受けすることにいたしました。

長い歴史と伝統を誇る茗溪会が創立された茗溪学園です。筑波大学との繋がりは深く、学園の更なる発展のためには筑波大学および茗溪会との連携は欠かせないものであります。私は、茗溪会員ではございませんが、西川潔理事を始め大学にご縁のある理事・評議員の方々のご協力を得て、任を果たしてまいりたいと存じます。また、学園経営に当たりましては、私学ということもあり、財務的な経営の経験を生かして欲しいというご要望もいただいております。慣れないこともあり、様々な課題もあるうかと思いますが、理事の皆様方、教職員の方々と力を合わせて、学園発展のために精一杯尽くしてまいります。

す。茗溪会の皆様方からのご指導、ご鞭撻も賜りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



田代 淳一 55歳
(たしろ じゅんいち)
昭和59年
筑波大学大学院修士課程
教育研究科修了
昭和63年から 茗溪学園教諭
平成23年 教頭
平成26年 副校長
専門科目は理科（化学）

このたび前校長柴田淳先生の後任として着任いたしました田代淳一と申します。教務部長、教頭、副校長としてスーパースাইエンスハイスクールやスーパースクールハイスクールアソシエイト、国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会などのプロジェクト、筑波大学との高大連携関係の推進を担当してまいりました。

政府の成長戦略を受けて教育も大きく変わろうとしています。激動が予想されるこの時期に本校設立の理念を改めて深く認識し、「世界的日本人の育成」という本校流のグローバル人材育成を強く推進して教育実践校としての使命を果たしたいと考えています。日本式教育の強みを生かしながら、「自分の考えを持つ力」「その考えを伝える力」「伝えようとする勇氣」、これらの訓練と実践から生まれる自信を、すべての指導を通じて全員の生徒に身につけさせます。どのように状況が変化してもあきらめず、どうすれば解決できるかを考え、仲間伝えて協力し勇氣を持つて前に進む。こういう、人間としての基礎力を備えてこそ、国を超える課題に立ち向かえる若者になれると考えています。

茗溪学園は、子どもたちが変化し世の中が変化しても、建学の理念や教育目標を見失うことなく、形を変えながらも真の教育実践を行い続けます。国際バカロレアのカリキュラムも日本の高校教育にどのように定着させ、意味のあるものにできるか試行します。どうぞご支援をお願いいたします。

平成二十七年春の叙勲 おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

阿部 重喜	16 高師体三	(山形)
伊藤 敬	35 教大教	(千葉)
大久保隆郎	41 院修中古	(福岡)
奥谷 多作	34 教大工芸	(神奈川)
垣田 高夫	27 大教	(東京)
小林 重雄	33 教大心	(東京)
小林 芳郎	34 教大心	(大阪)
作野 史朗	37 教大専攻	(三重)
佐藤 泰正	27 大心	(埼玉)
関岡 康雄	33 教大心	(茨城)
武田 宏	35 院修植	(新潟)
堀野 三郎	33 教大心	(長崎)
	34 教大専攻	

瑞宝小綬章

稲葉 節生	42 教大化	(茨城)
上田 有宏	42 教大法政	(千葉)
大辻 昇	42 教大総農	(神奈川)
佐藤 秀信	38 教大心	(千葉)
藤田 英征	41 教大日史	(神奈川)
古口 紀夫	38 教大経済	(栃木)
溝口 碩矩	39 教大数	(神奈川)
山内 洋行	42 教大仏文	(茨城)
山科 博	41 教大東史	(山形)
瑞宝双光章		
戸叶 義能	31 教大林	(神奈川)

東京都以外の瑞宝小綬章は、毎回、地域組織(以前の支部)にお知らせ下さるようお願いしておりますが、今回ご連絡いただいたのは19府県でした。

桐の葉のつどい

同期入学、または同行のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆東京教育大学教育学部教育学科(昭和30年卒)

卒業60周年記念クラス会

とき 平成27年4月15日(水)

ところ 東京ガーデンパレス

昭和30(1955)年、東教大教育学部教育学科卒業の面々です。「茗溪の水」を濁さないよう頑張っています。



◆「古希を祝う会」東京教育大学特殊教育学科

(昭和39年度入学)

とき 平成27年4月19日(日)

ところ 渋谷エクセルホテル東急「日本料理 旬彩」

古希を記念し卒業後5回目のクラス会を開催。福岡、長崎、愛知、金沢からも駆けつけてくれ、半数近い10名の出席となった。はじめに病に倒れた友を偲んで黙祷。続いて各人から近況報告が語られ、また思い出話に花が咲いて半世紀前にタイムスリップしていった。当時は高度経済成長の波の真っ只中にあり、母校は筑波移転問題に大きく揺れていた時代であった。喫茶店での2次会も瞬く間に過ぎ、次回は「喜寿」の年に集まることを誓い合っ、あの頃笑顔での散会となった。

文：奥井



◆三四会(東京教育大学 理学部 数学科 昭和34年卒)

とき 平成27年5月22日(金)

ところ なた万賓館(小田急百貨店新宿店14F)

卒業してから48回目の三四会が、福岡、新潟、松本からを含めて14人の出席を得て開催されました。先ず、昨年物故された会員の逝去に対して、1分間の黙祷を捧げ、故人の冥福を祈りました。乾杯の後、和食に舌鼓を打ちながら、今後の三四会の存続について討論しました。来年は会員の多くが傘寿を迎えることもあり、開催することに決しました。同時に、期日は5月24日(火)とし、会場は幹事一任となりました。次に、各自より近況報告があり、会の終わりには、恒例の松本から出席した柳原君が地元の子供たちに行っている「速算術」と「手品」の披露があり、しばらく振りに「脳トレ」に励みました。

(文・写真 龍井昇治)



◆山紫会(昭和34年 東京教育大学文学部東洋史学入学者の会)

とき 平成27年6月11日(木)~13日(土)

ところ 富山県 五箇山荘 石川県 輪島の民宿

恩師故中嶋敏先生が山がお好きで、よく一緒したので、会の名前は昭和34年入学にかけて「山紫会」と名付けました。還暦後は毎年、出身地の持ち回りでクラス会を開いています。今年は北陸新幹線が開通したこともあり、富山の長谷川さんが計画してくださり9名が参加しました。車3台で井波の町を訪れ、木彫の資料館や井波別院(瑞泉寺)を見学、五箇山荘に泊まりました。翌日は世界遺産の五箇山の合掌造りを見学後、輪島まで足を延ばし、三日目は輪島の朝市やキリコ会館等を見学しました。

写真：柴崎正行 文：高原 将



追 悼 録 (敬称略)

中村 正年 筑波大学名誉教授 26・11・5
 〒859-1413 島原市有明町大三東丙549 妻 中村 弘子
野口 太彌 15理一 27・4・2
 〒433-8108 浜松市北区根洗町289-1 アマノサハート 長男 野口 洋一
光畑 正夫 16文四 27・3・11
 〒706-0013 玉野市奥玉1-22-8 長女 榎本 啓子
鍬形建一郎 19文二 27・4・8
 〒561-0862 豊中市西泉丘2-2462-19 妻 鍬形いつ子
木野 嘉明 20文一 27・1・21
 〒158-0081 世田谷区深沢1-37-3 妻 木野 美幸
青柳 正吾 20体二 27・5・8
 〒262-0032 千葉市花見川区幕張町5-481-5-206 長女 今村 麻美
飯島 利彦 20臨生 27・4・8
 〒409-1305 甲州市勝沼町綿塚903 長女 荒井 祐子
加藤 正治 20体専 26・11・6
 〒010-0902 秋田市保戸野金砂町1-6 妻 加藤 和子
萩島 久 20農教 27・1・14
 〒315-0017 石岡市若宮4-1-41 長男 萩島 淳一
石田 行 22体 27・1・22
 〒842-0003 神埼市神埼町本堀3183-7 長女 山崎 明子
後藤 八郎 22体 25・9・11
 〒999-3157 上市市御井戸丁6-20 妻 後藤 保子
岡本 奎六 22大心 27・3・1
 〒155-0031 世田谷区北沢4-3-18 妻 岡本 孝子
伊久間逸雄 22臨物象 27・3・27
 〒174-0054 板橋区宮本町28-11 妻 伊久間正子
沼田 一夫 23理三 27・1・29
 〒063-0003 札幌市西区山の手3条9丁目1-10 妻 沼田 幸子
白波瀬勝忠 23体 26・10・9
 〒620-0953 福知山市今安1337 三女 白波瀬芳美
戸本 文雄 23臨生 27・4・23
 〒422-8063 静岡市駿河区馬淵3-18-20-A101 長男 戸本 喜文
鈴木 民郎 24文五 27・3・13
 〒974-8241 いわき市山田町東作1 妻 鈴木 澄子
森河 孝二 24理一 27・1・27
 〒320-0061 宇都宮市宝木町1-2587-36 妻 森河 ヨシ
菅谷 親良 24理二 26・7・9
 〒300-0812 土浦市下高津2-13-4 妻 菅谷 恭子
杉山 登 24体 27・1・5
 〒272-0821 市川市下貝塚2-1-11 長男 杉山 雅之
渡辺 岩男 24体 26・3・27
 〒166-0004 杉並区阿佐谷南1-25-23 妻 渡辺登喜子
石井 秀夫 25大国 27・3・9
 〒152-0003 目黒区碑文谷5-6-7 妻 石井 潤子
太田 昭 26文四 25・8・7
 〒350-1317 狭山市水野766-8 長女 荒井 俊子
若杉 栄 26理二 27・3・7
 〒960-8141 福島市渡利字中角11-5 妻 若杉 和子

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・ 遺族住所・氏名

青木 行雄 26理三 27・1・23
 〒310-0903 水戸市堀町2023-62 妻 青木 理子
中村昭太郎 27大数 27・5・18
 〒997-0037 鶴岡市若葉町14-4 妻 中村 昭子
小倉 正男 27文二 26・12・26
 〒294-0045 館山市北条2265 妻 小倉 敏子
北村 柳二 27農教 27・6・18
 〒957-0053 新発田市中央町5-4-14 養女 平林 昌子
秦 迪也 28大心 26・10・20
 〒254-0024 平塚市馬入本町14-3 妻 秦 雅子
舛田 辰郎 28大化 27・4・28
 〒193-0833 八王子市めじろ台3-15-10 妻 舛田 初恵
貝塚 徹 28教大数 26・6・14
 〒146-0095 大田区多摩川2-24-62-2-1401 妻 貝塚美智子
平山 光衛 28教大地 27・1・20
 〒320-0056 宇都宮市戸祭4-9-26 妻 平山美登里
杉村 暢二 28教大地 27・5・29
 〒178-0065 練馬区西大泉1-36-39 妻 杉村もと子
伴 弘毅 29教大動 27・3・22
 〒324-0043 大田原市浅香5-3775-1 妻 伴 とく子
高橋 博良 29教大農化 26・8・19
 〒180-0023 武蔵野市境南町1-30-1 長男 高橋孝太郎
牧田 章 30特設教 26・2・3
 〒504-0912 各務原市那加桜町1-1-1 妻 牧田恵美子
荒井 繁雄 31教大倫 26・7・31
 〒333-0801 川口市東川口4-7-34 妻 荒井 育子
奥山 晃弘 31教大数 27・3・25
 〒651-1212 神戸市北区筑紫が丘8-17-5 妻 奥山 紀子
岡田 隆行 32教大心 26・12・25
 〒130-0021 墨田区緑25-8 妻 岡田 智江
越智 節 33教大農 27・5・15
 〒465-0005 名古屋市名東区香流1-322 長男 越智 宏
竹之内 保 33教大健 27・3・28
 〒257-0031 秦野市曾屋6024-6 妻 竹之内静子
惣山 益雄 34教大日史 26・9・5
 〒950-2054 新潟市西区寺尾東2-7-15 妻 惣山みよ子
中山 真 34教大数 27・4・2
 〒340-0017 草加市吉町2-3-58 妻 中山 弘子
岩村 孟 35教大地 27・3・17
 〒228-0024 座間市入谷2-135-74 妻 岩村 正子
中村 稔 37教大英 26・1・12
 〒411-0029 三島市光ヶ丘3-15 妻 中村 啓子
西村 浩一 38農専攻 27・3・7
 〒241-0801 横浜市旭区若葉台2-22-203 妹 志村 寿子
山口 和展 38教大英 27・4・16
 〒859-0303 諫早市高天町2336 妻 山口フジ子
竹島 政信 39教大教 26・12・31
 〒930-0916 富山市向新庄町1-6-23 妻 竹島由美子

広 報

地域組織総会の開催について

6月から7月にかけて地域組織の総会が開かれる組織は次のとおりです。

組織名	実施日	派遣 理事	講演会の予定
大阪	6／6	江田	「大学の現状とキャンパスライフ」 講師 玉川信一筑波大学副学長
筑波大	6／17	江田 西川	
熊本	6／20	高野	
長野	6／21	古藤	「長野県高校教育の現状と課題」 講師 藤井昭一氏 「第16回世界剣道選手権大会の活動報告」 講師 廣野準一氏
奈良	6／27	江田	「コミュニケーション力アップのためのコーチング入門」 講師 大川郁子氏
群馬	6／27	宮尾	
栃木	6／27	佐藤	
茨城	6／28	五味田	
神奈川	7／4	西川	「筑波大学の動向について」(仮題) 講師 永田恭介筑波大学長(代)
新潟	7／4	古藤	
福岡	7／4	江田	
愛媛	7／5	古藤	「地元造船業勤務の実態と学びについて」 講師 本宮 弘氏
愛知	7／5	高野	「彫刻と共に」 講師 山本真輔 名古屋市立大学名誉教授
千葉	7／5	百瀬	
富山	7／5	柴田	
静岡	7／5	川田	「日本の食文化」 講師 熊倉功夫 静岡文化芸術大学長
三重	7／26	江田	

秋に総会が開かれる予定の組織は次のとおりです。

京都 11／21 茗体会 11／15 東京 11／29

一般社団法人 茗溪会にご寄付

○昭和18年に東京高等師範 理科二部に入学された本会の会員 理三二会(代表高橋浩一)様から、平成27年3月25日に3万6千円のご寄付をいただきました。
○平成27年4月27日に故 平山光衛氏(教大地理28 院修地理32)の奥様平山美登里様から、5万円のご寄付をいただきました。

ご意向に従いまして有効に活用させていただきます。
誌上をかりてお礼を申し上げます。

「茗溪フェロー」掲載漏れのお詫びと追記

本誌1085号に「茗溪フェロー」にご協力いただいた会員の皆様の芳名録を掲載致しましたが、鈴木祥史様のお名前が漏れておりましたので、お詫びして追記致します。

交流広告(暑中見舞い)掲載延期のお知らせ

本誌では交流広告として、皆様にご協力いただき正月号で平成25年以來3回、夏号で2回掲載して参りました。今回も掲載を企画して、お願いしていましたが、ご応募が少なく、掲載を延期いたします。ご応募いただいた皆様にはご協力いただきましたことにお礼申し上げます。

平成28年正月(1088)号で「賀詞交換」という形で掲載致したいと考えておりますので、よろしくご協力のほど、お願い致します。
(組織委員長 川田孝一)

表紙の言葉―デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

これまで緑の風景をたびたび紹介してきたが、ダイナミックな研究・教育活動が行われる建築と、緑、学生や研究者の織りなす風景こそが大学らしい。今回は、人間総合科学研究科が入る総合研究棟Dを撮った。キャンパス内で私が好きな建物の一つである。松美口から南に1km強、体芸地区の南端に位置する。設計は芸術系の鶴沢隆教授。2010年3月に竣工、7階建て、延べ床約1万5000㎡。医学、心理、教育、体育、芸術等が統合された先端研究組織に相応しい知的で洗練されたデザインである。鶴沢教授は、茗溪会筑波事務所のある総合交流会館のデザインも担当された。

編集後記

- ・特集Ⅰは「第4回 定時総会」についてです。本会の活動の様子をご承知下さい。
- ・特集Ⅱは『教育学者 清水一彦さんと考える日本の教育』の第4回(最終回)です。筑波大学副学長から山梨県立大学の理事長・学長になられた先生を、藤田教授が甲府にお訪ねして、先生の生いたち、東京教育大学時代の生活や研究テーマ、研究者として影響を受けた先人たち、わが国の教育制度学の歩み、これからの教育制度学の課題などについてお話をいただき、最後に若い教育学研究者へのメッセージをいただきました。次号より現在11校ある、筑波大学の付属学校について、6回の予定で連載いたします。ご期待下さい。

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
- ・年会費のお振込みは、早めをお願いいたします。

平成27年7月15日発行

発行 一般社団法人 茗 溪 会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一―五―二三

TEL 〇三―三九四―〇一三六

FAX 〇三―三九四―一七六七

E-mail info@mekei.or.jp

URL http://www.mekei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇―二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一―一―

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九―八五〇―一〇四四

FAX 〇二九―八五〇―一〇四五

E-mail tsujimu@mekei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一―三九―一〇

山浦印刷株式会社



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学
大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の
支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本部／茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：上席執行役員秘書室長 岡本 俊一
〈昭和56年 第一学群 社会学類 卒業〉

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究科修了)

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tasukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

つくばの名酒
雲 竹 王 波

合資会社 **浦里酒造店**

つくば市吉沼982

TEL 029-865-0032

FAX 029-865-1857

～筑波大学発ベンチャー～

**つくば
ウエルネスリサーチ**は

暮らすことで「健幸」になるまちづくり

スマートウエルネスシティ(SWC)構想を

進めています！

〒277-8519

柏市若柴178番地4 KOIL505

Tel: 04-7197-2360



最新刊 好評発売中!

ご注文は最寄りの書店または丸善出版へ

TEL 03(3512)3256

『利益相反とは何か』

— どうすれば科学研究に対する信頼を取り戻せるのか —

新谷 由紀子 著

A5判・並製2,700円+税 ISBN 978-4D904074-35-0



本書では、すべての研究開発の現場で起こりうる「利益相反問題」を、適切にマネジメントすることの重要性について具体例を示しながら解説する。あらゆる研究に携わっている研究者や企業人のみならず、これから社会に出て行く学生にも広く読んでもらいたい一冊です。

『森林学への招待 [増補改訂版]』

中村 徹 編著

A5判・並製2,200円+税
ISBN 978-4-904074-36-7



2010年に刊行した初版に2章分を追加、全体を見直し1章分を差し替え、さらに口絵も増した増補改訂版。世界でも有数の森林国である日本は、森林が人々の生活に密着しています。森林学の専門家だけでなく、幅広い読者にお薦めしたい一冊です。



株式会社 阿部兄弟建築事務所

http://abeoffice.co.jp



〒101-0032
東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
代表取締役 荒井 豊人 (昭57 建築工)
TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

相続・法人設立・ビザ etc...

行政書士 高谷真一事務所

〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号
TEL&FAX 029-821-8177

代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)



スキューバダイビングの アセントツアー

東京都知事登録旅行業3-3443号

東京都港区赤坂6-13-19-502 03-3560-3381

取締役社長 川上 雄笹 (昭45年 農芸化学卒)
http://ascent.co.jp/ kawakami@ascent.co.jp

経営・労務・年金etc. コンサルタント

福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3
TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所 長 福岡 一雄 (32教大法政)
社会保険労務士



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋
TEL 0300-2451 茨城県つくばみらい市 東編 254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

株東京科学光芸社

茗溪会館写真スタジオ

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23

茗溪会館3階

TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

聖徳大学 文学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬55

電話 047-365-1111(代表)

E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp

学部長 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)

スポーツ選手、文化人のマネジメント&キャスティング
トレーニングジム、鍼灸整骨院、デイスーツの運営

株式会社 スポーツカンパニー ジャパン

〒590-0412 大阪府泉南郡熊取町紺屋2-21-17

TEL 072-452-0030 http://tachiryugym.com

代表取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)
fujita@sportscompany.co.jp



永井建設株式会社

〒273-0115 千葉県鎌ヶ谷市東道野辺3-1-7
電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940

営業部長 高野 力 (昭48教大木工)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケイエスアイ

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1
東京フジビル502号室

TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)1578

執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

つくばでの宿泊・研修にー

ご家族で、お仲間で

最大収容180名、お一人3,700円から

茗溪会員とご家族に割引あり

研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に

シングル145室ツイン5室和室5室/研修室2室(120・40名)

和室も研修室として利用可(20畳、10畳)

館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等(数名から80名まで)

アクセス

秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車

●バス/「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車

徒歩8分●つくば駅からタクシー/5分

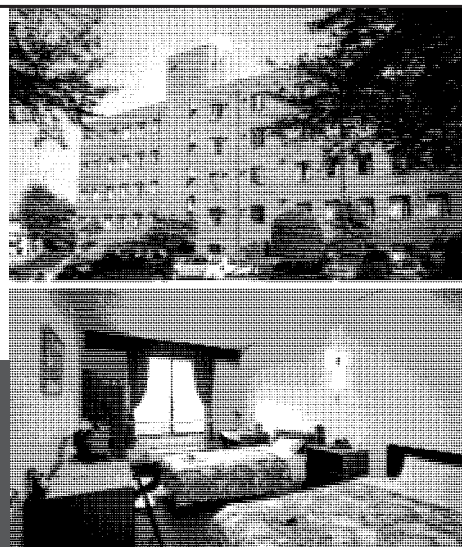
一般財団法人筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒308-0008 茨城県つくば市天久保1-13-5

TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

http://www.meikei.or.jp/~center e-mail: center@meikei.or.jp



(株)ブライダルは
筑波大学同窓会会員の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

37年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

筑波大コース 登録料
50%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>
<http://www.bridal-vip.net/m/>



右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



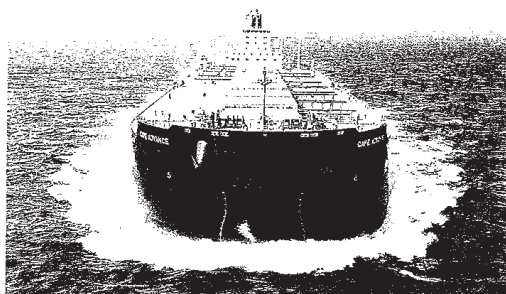
37年の実績
株式会社

ブライダル

東京本社
Network

〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

Ships 21 Co., Ltd.
shipbrokers



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の
海運業に貢献すべく。 体力・気力があり、英語が
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事か見
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス

TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp

代表: 鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒

現: 筑波大学ラグビー部OB会、副会長



桜美林大学
J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
入試広報センター相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ共同)

¥ 6,500→平日¥ 4,800 休前日¥ 5,800

シングルA (バス・トイレ付)

¥ 8,200→平日¥ 6,200 休前日¥ 7,200

ツイン (バス・トイレ付)

¥13,800→平日¥ 9,800 休前日¥12,800

朝食バイキング ¥ 1,050→¥ 760

大浴場時間 : 6:30~9:00 17:00~01:00



東京都新宿区新宿6-3-2

TEL 03 (3356) 4605

FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線	新宿御苑前駅	1 番出口	} より徒歩 7 分
都営新宿線	新宿三丁目駅	C 7 出口	
地下鉄副都心線	新宿三丁目駅	E 2 出口	

JR新宿駅より車 5 分



IT'S A BIG WORLD. GO RUN IT.

ASICS.COM

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です



平成27年度公開行事

9月 5日(土) 高校受験生見学会

10月24日(土) 学園入試説明会

10月27日(火)～11月 1日(日)

茗溪学園美術展

会場: 茨城県つくば美術館



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)